

4月29日(金)

昭和の日

富士山かぐや姫ミュージアム

オープン



「展示室③ 富士山とかぐや姫」入り口



開館時間／ 4～10月 9:00～17:00
11～3月 9:00～16:30
休館日／月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12月29日～翌年1月3日
※5月2日(月)は開館、5月6日(金)は休館。
観覧料／無料

〒417-0061 伝法 66-2
☎21-3380 FAX 21-3398
✉museum@div.city.fuji.shizuoka.jp
HP http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/

昭和56年(1981)に開館し、長い間親しまれてきた富士市立博物館。このたび、耐震工事と常設展示のリニューアルを終え、愛称を「富士山かぐや姫ミュージアム」として生まれ変わります。

リニューアル後の特徴

「富士に生きる」という大テーマのもと、展示コーナー「富士川舟運と渡船」、「富士の災害」を追加。さらに、リニューアルの目玉として、富士山へ帰るかぐや姫の物語を紹介するコーナー「富士山とかぐや姫」も新たに登場します。

そして、広見公園から直接2階フロアに入館できるエントランス(出入口)ができ、観覧料が無料になります。公園に散歩に訪れた人も、気軽に立ち寄れるようになります。

また、1階エントランスホールには、施設利用団体が制作した作品を展示するなど、市民の皆さんが博物館を自由に活用できます。

オープニングイベント

落成式

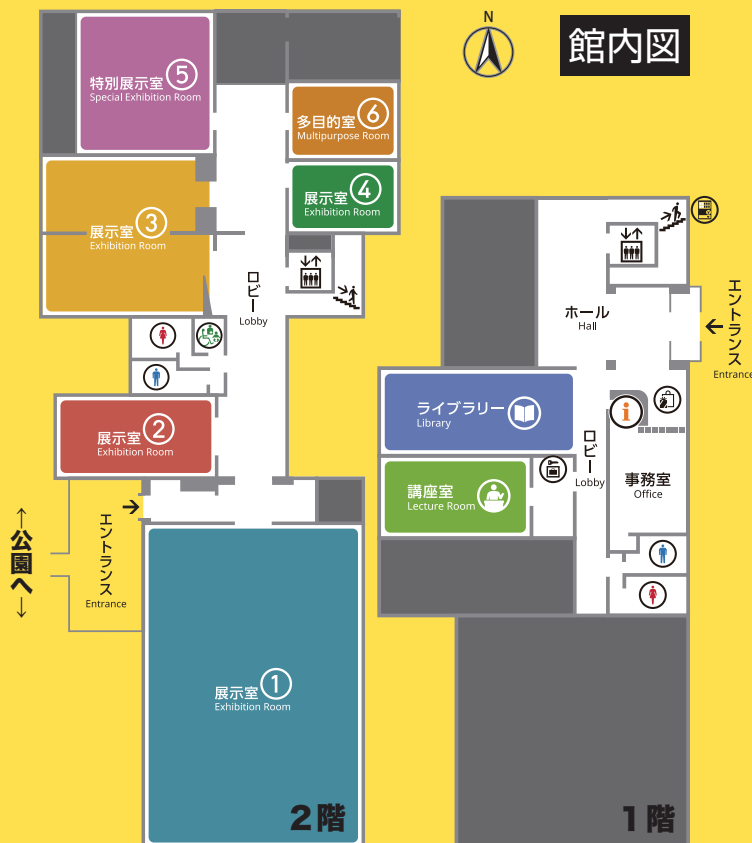
とき／4月29日(金) 昭和の日

13～14時

(14時から一般公開)

※先着100人に記念品を贈呈。

館内図



展示室① 富士に生きる



「富士川舟運と渡船」コーナーでは、江戸時代に物資を運ぶため、富士川を使って静岡・山梨間を舟で往来した様子を、レプリカなどから学ぶことができます。また、渡船の様子を、絵図や古文書、古写真、50分の1で復元された舟の模型、映像などから学ぶことができます。

「富士の災害」コーナーでは、地震・津波・高潮など自然災害について紹介します。

展示室③ 富士山とかぐや姫



世界文化遺産登録で盛り上がる富士山の信仰と、その富士山を舞台に繰り広げられるかぐや姫の物語について、六所家総合調査で発見された新史料「富士山縁起」を中心にひもといていきます。

富士川西岸、岩淵の地では12年に一度、申の年に富士山頂に白木の鳥居を奉納するという行事が、「鳥居講」という組織によって、江戸時代から現在まで途絶えることなく行われてきました。その鳥居講について、ジオラマや各種資料から紹介します。

なお、ことし8月に行われる鳥居講に参加する人を募集しています。詳しくは、岩淵鳥居講実行委員会 柳下方(☎81-0468)へ。



▲青い目の人形メリー

と き / 4月29日～5月8日
 ところ / 2階多目的室
 昭和2年(1927)、日米友好のあかしとしてアメリカから贈られた1万2000体余りの青い目の人形。そのお礼として日本から58体の答礼人形が贈られました。そのうち、静岡県から贈られた人形が「富士山三保子」です。富士市に残る「青い目の人形メリー」とともに紹介します。



▲野口三四郎「三四郎人形 五月の賦」野口冬樹氏蔵

オープン記念展「富士のある風景」
 と き / 4月29日～6月19日
 ところ / 2階特別展示室
 快適な展示室で、富士山の絵画や写真などをゆっくりご覧いただき。